

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1991. 6

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 85

日本野鳥の会 埼玉県支部

カッコウほどおもしろい鳥はいない!

松田 喬 (上尾市)

日本には、カッコウ、ツツドリ、ホトトギス、ジュウイチと、4種類ものカッコウの仲間が生息しています。また、近年になってカッコウのオナガへの托卵が始まるなど、日本でのカッコウの研究は世界的にも注目されています。

県内では、最近になってホオジロ、モズ、オナガ、オオヨシキリ等への托卵例が知られるようになりました。私と内田博氏は、1984年から荒川流域でオオヨシキリに托卵しているカッコウの研究を続けています。その一部をご紹介しますと思います。

カッコウvsオオヨシキリの 仁義無き戦い

これじゃまるでプロレスかヤクザ映画のボスターのようですが、托卵をめぐるカッコウとオオヨシキリの争いを見ていると、これがピッタリという気がします。

1989年に、托卵しようとするカッコウとそれを阻もうとするオオヨシキリのつがいとのすさまじいまでの攻防戦を観察しました。

まず、6月26日に、托卵しているカッコウの背中にオオヨシキリのオスが馬乗りになって激しく攻撃している場面が、ビデオカメラで撮影されました。

その翌日、別のカッコウのメスが同じ巣に托卵しようとしたのですが、オオヨシキリのオスは、カッコウが巣の近くの木に止まるとすぐに激しく攻撃し、メスも巣のそばで警戒しています。カッコウもあきらめずに何回も巣に近づきますが、そのたびにオオヨシキリの攻撃を受けて托卵できません。午後6時23分から7時37分までの間に、26回もこうした争いが続きました。最後は、真っ暗になって、とうとうカッコウも托卵をあきらめました。

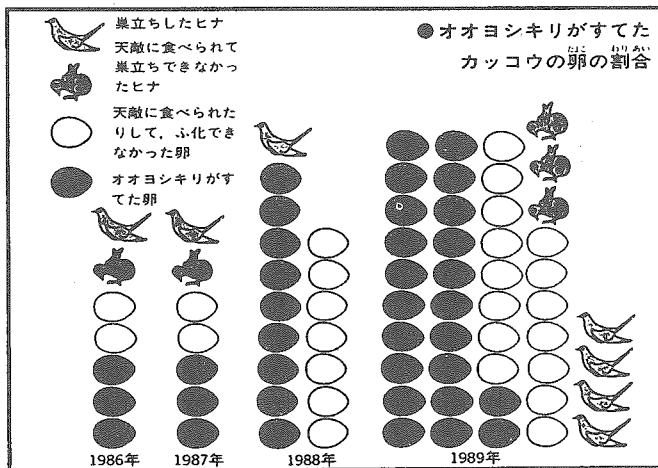
どちらも、自分の子孫を残すために必死です。これは善悪を超えた生き残るための争いです。こうした熾烈な争いが、カッコウの托卵行動を「ずる賢い」と思わせるほどに巧妙に進化させた原因なのです。

オオヨシキリはカッコウの托卵に 気づいているか?

カッコウの卵は、仮親の卵によく擬態しているといわれます。しかし、私たちのフィールドでは、仮親卵に似たカッコウ卵はあまり見つかっていません。仮親がカッコウの托卵に全く気づいていなければ、カッコウの卵擬態は進化しないはずですが、オオヨシキリは、まだカッコウの托卵に気づいていないのでしょうか?

托卵された数日後にオオヨシキリの巣の中からカッコウ卵だけが消えてしまうという事件がありました。しかし、「天敵が食べた」のか、「オオヨシキリがカッコウ卵と気づいて排斥した」のか分かりませんでした。

1986年6月19日、あぜ道にあきらかに鳥がくちばしで突っついて開けた穴のあるカッコウ卵が落ちていました。ところが、そのカッコウ卵が托卵されていた巣に行ってみると、オオヨシキリの卵は全部残っていて、巣が荒された様子はありません。オオヨシキリはカッコウ卵に気づいて排斥しているようです。そして、1989年に、オオヨシキリがカッコウ卵を捨てる様子をビデオ撮影することができました。オオヨシキリは、托卵された翌日、カッコウ卵を激しく突っついて穴を開け、卵黄の一部をすすって食べた後で、殻をくわえて捨てに行きました。托卵されたカッコウ卵の半数近くが排斥されてしまいます。



多い産卵数

産卵数を調べるためには、カッコウより先にオオヨシキリの巣を見つけることと、その後も抱卵が始まるまで巣を毎日見回って卵数等を確認することが必要です。

それは、オオヨシキリの場合には、1～3卵の産卵初期に托卵されることが多いことと、托卵後1～2日のうちにオオヨシキリがカッコウ卵を排斥してしまうことが多いためです。

私たちは、カッコウの胸を油性インクで着色して個体識別し、社会行動や産卵数等を調べていますが、1989年に定着した3羽のメスの産卵数は、それぞれ10個、16個、18個、平均して14.7個でした。これは非常に多い産卵数です。やはり、托卵によって巣造りや子育ての重労働から開放されたことが、このように多くの卵を産むことを可能にしているのでしょう。

卵の色が変わる？

初め見つけたときは赤い色だったのに、後で見に行くと褐色に変わっていました。「そんな馬鹿な？」と思って、セットしておいたビデオを再生してみると、その間に別のカッコウが托卵し、産み込まれていたカッコウ卵をくわえて去っていました。この巣は、同じ日のうちに、二重托卵されていたのです。

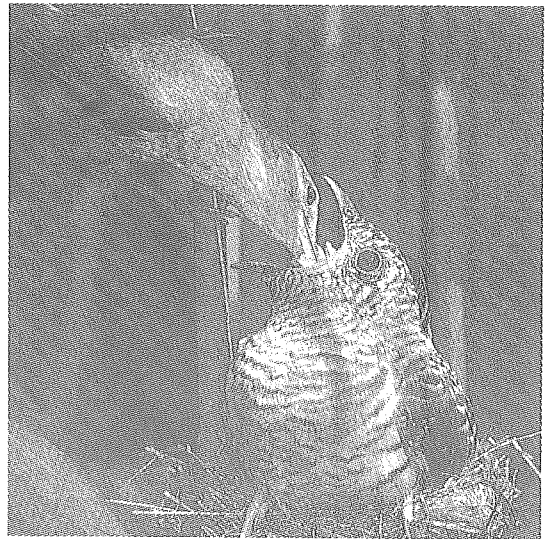
また、最初の卵がオオヨシキリによって排斥された後で、再び別のカッコウが托卵するという例もありました。このため毎日卵紋と数を確かめる必要があるのです。

ビデオは超便利！ しかし

こうしたカッコウの托卵行動やオオヨシキリの排斥行動の記録に威力を発揮したのがビデオカメラです。巣の近くにセットしておけば、無人で、2時間も詳細に記録してくれるのです。しかも、オオヨシキリもカッコウも全くと言っていいほどカメラを気にしません。テープをコマ送りや繰り返して再生することで、非常に多くのことが分かりました。

カッコウがオオヨシキリの巣に托卵するのにかかった時間は、最短で3.6秒、最長で6.4秒でした。平均しても5秒ほどです。これもビデオのおかげです。

ビデオの欠点は、睡眠不足になることです。え、どうして？ 私は2台のビデオカメラを用意して、毎日4～6時間ほど撮影しています。合計8～12時間分のビデオを、家に帰ってからチェックするのですが、「早送り」で見ても毎日2～3時間はかかります。そこで毎日睡魔と戦いながら頑張るはめになります。



したたかなメスの戦略

オオヨシキリは一夫多妻であることはよく知られていますが、カッコウは乱婚という説が有力です。私たちのフィールドでは、一夫多妻の様に思える事例が多いのですが、観察を続けるうちに乱婚かもしれないと考えられるようになりました。

オスは明らかに一夫多妻を志向していて、なわばり内に新しいメスが出現すると、木の枝や葉っぱを口にくわえて近づき、盛んにプロポーズします。こうしたときは、近くのなわばりのオスも侵入してきて、激しいメスの争奪戦が始まります。

一方、メスは、托卵可能な仮親の巣が多い繁殖前記は、特定のオスのなわばり内に定住し、継続的なつがい関係を保っているようですが、繁殖後期になると、他のオスのなわばり内にも托卵することが多くなります。この時期には、見慣れぬ（未標識の）メスの出現が目立つようになります。どうも、メスは、托卵可能な仮親の巣が無くなると、さっさとつがい関係を解消して、別のオスのところへ行ってしまふようです。

最後に

私は、カッコウという大変興味深い鳥に身近なフィールドで出会えたことは、とても幸運だったと思います。これからもさらに托卵のナゾを探っていくつもりです。カッコウについての情報がありましたら、何でも結構です。ぜひ教えてください。

松田喬・内田博著、『鳥の研究 カッコウの子育て作戦』は、あかね書房発行で、定価1,300円です。

地鳴きコーナー

|||||| 新人のちょっと変かなと自然保護 |||

渡邊光行（浦和市）

環境破壊の事が気になり、昔取った杵柄で、あちこちの自然団体に入り、講演会を聞いたり観察会に参加したりしています。

では、自然保護をしているか？と聞かれたら、ごみを自然の中に出さない位の事しかしていません。これでは急を要する地球規模の環境破壊に、ストップなどかけられません。

でも、TVを見ても新聞を読んでも自然の事が気になり、ああだ！こうだ！とTPOを考えず、四六時中さえずっている自分に気が付きました。

色々な自然保護が有るでしょうが、民主主義なら、より多くの友と・より深く・より多く自然のすばらしさ大切さを本音で語る所が、最も大切な自然保護の一部と信じます。

新人として気付いた事を少し。

* 探鳥会の鳥合わせについて否定的に考える人がいますが、参加者同志と自然との柔らかい探鳥会であれば、良く出来たネイチャーゲームだと思います。

* 昆虫採集は良くないと言う人がいますが、虫は鳥よりも環境下の生物であり、特別な虫以外は、捕食（環境破壊も含め）され尽くさない昆虫の環境を作ると言う事ではないでしょうか。

* ボランティアとは同好者の金銭的でない、真の行為であり、真の民意だと思います。

|||||| 雨ニモマケル |||

五条壇武男（浦和市）

雨ニモマケル 風ニモマケル

今日ハアツカッタトイッテハ

オサケヲノミ

サムカッタトイッテハ

オサケヲノム

東ニ探鳥会ガアレバ、ヨロヨロ歩キ

西ニ珍鳥ガ出レバ、オロオロ歩ク

ソシテ、今日モ酔ッ払ッテ寝ル

キミハ、コンナ人間ニ

ナッテハイケナイ

|||||| 部分白化 うちのアオクビアヒルの場合 |||

松本由（寄居町）

5月号の「地鳴きコーナー」、三田長久さんの『部分白化に関する私的考察』を読みました。

我が家には、5才になるアオクビアヒルのオスがいます。ヒナの時から、頭のとっぺんに

「ちょん」と白い羽が生えています。何度も換羽していますが、必ず同じところが白いです。野鳥ではありませんが、同じ鳥類なので、報告しようと思いました。



|||||| 明るく正しいトイレができた!! |||

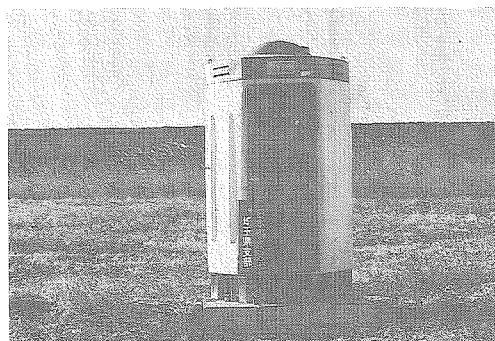
町田好一郎（本庄市）

いつも探鳥会が近づくと、本庄J高校へ「あっ、日本野鳥の会の町田ですが、今度の日曜日、又探鳥会が利根川でありますので、毎度申し訳ありません。トイレ使用の件、よろしくお願いします」とTELするのが常だった。

鳥合せの場所に簡易トイレが設置されていたのだが、使用不能になってから、3~4年もそのままの状態だった。何回か市役所の担当セクションに修理を申し入れたが、何のアクションも取られなかった。

昨年末、市の広報紙に「市長へのダイレクトメール」がはさみ込まれていた。

早速「拝啓市長様!! 利根川に、明るく、



きれいなトイレを作って下さい。とね川の鳥たち一同。世話人・町田」と、トイレのイラスト入りで直訴してみた。

効果大!! 年が明けると、古いトイレが取り壊された。それから2~3日すると、出来た!! 出来た!! バードウォッチャー念願の「明るいトイレ」が完成した。やったね。

皆さん、これで安心して阪東大橋へ来てね!!

本庄J高校さん、長い間お世話様でした。

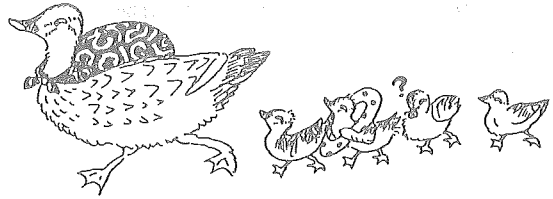
宮崎へ来て一年

押川歳子(宮崎市)

こんにちは。早いもので宮崎へ来てからもうすぐ一年です。

庭に餌台を作ってみました。ヒヨドリが来るようになり、メジロも来ました。モズ、ハクセキレイ、アオジ、カンラダカ、カワラヒワ、キジバト、スズメ、ジョウビタキ、以上がわが庭のお客様でした。

(カット・押川歳子)



近所の木々では、ヒレンジャクの団体さんが来ました。私は初めて見たので、ポーと大口をあけて見上げていました。ヤツデの木にいた時は、すぐ目の前まで行って見えても逃げません。

これから夏に向かいますと、この辺ではあまり鳥が見あたりません。ツバメとスズメぐらいです。そのかわり、歓迎したくないお客様として、トカゲ(いろいろ)がふえます。トカゲ同士のケンカって見たことがありますか。なかなかのもんですよ。

さえずりコーナー

日本野鳥の会の理念について

海老原美夫(浦和市)

3月号に日本野鳥の会の理念の全文が掲載された。この理念を一文で端的に表現して使う場合の要旨は、次のとおり。

「日本野鳥の会は、自然を尊び守り賢明に利用することが人類の存続と幸福にとって不可欠であるとの認識にたち、野鳥を通して自然に親しみ自然を守る運動を、社会の信頼を得て発展させることによって、自然と人間が共存する豊かな地球環境の創造に貢献する」かなり難解な文章だ。

この文章は勝手に省略したり、一部分のみの引用はしないようにといわれているが、分かりやすくするために、少し分解してみた。

先ず、骨組みだけを取り出すと次のようになる。「日本野鳥の会は、自然と人間が共存する豊かな地球環境の創造に貢献する」

これは一目瞭然分かりやすい。

では、どういう立場で、というのが、「自然を尊び守り賢明に利用することが人類の存

続と幸福にとって不可欠であるとの認識にたち」。どういう方法で、「野鳥を通して自然に親しみ自然を守る運動を発展させることによって」。そしてその運動は「社会の信頼を得て発展させる」。

これで私にもようやく理解できた。

そもそも日本野鳥の会50年以上の歴史のなかで、明文化されたものが今までなかったというのが驚きだし、もう少し分かりやすい文章にしてほしかったとぼやきながらも、基本的な考え方はおそらくこれでいいだろうと納得する。

次に考えなければならないのは、この理念に基づいて、私たちは具体的にどういう活動を展開するか、という点だ。

今、野鳥の会の進める自然保護活動についての考え方、方向性について、シンポジウムや委員会で検討が重ねられている。

しかし、その結果を待っていることはない。私たちひとりひとりが考え、ひとりひとりがその解答をもたなければならないと思う。

野鳥情報

- オシドリ** ◇3月31日、坂戸市浅羽野地区の高麗川で♂1羽、♀3羽(館 明良)。
- ミコアイサ** ◇4月4日、深谷市の上武大橋下流で♂1羽。白と黒のコントラストがすばらしい。23日まで見られた(井上幹男)。
- ミサゴ** ◇3月28日、深谷市の上武大橋下流で1羽。カラスに追われる(井上幹男)。
- オオタカ** ◇4月24日午前6時、本庄市の阪東大橋下流で若鳥1羽。コガモの残留組にアタック。見事1羽を片足キックで捕らえる。ハンティングが下手でカモ達になめられていた彼も成長したもんだ(町田好一郎)。
- サシバ** ◇4月9日、浦和市上野田の野田農協上空で1羽(藤原寛治)。◇4月18日、本庄市の阪東大橋下流で1羽。本流上空で大きく輪を描き、その後、男体山方向へ消える(町田好一郎)。◇4月21日、横瀬町字根で1羽(海老原美夫)。
- コチョウゲンボウ** ◇4月9日、深谷市の上武大橋下流で1羽。小鳥を追いまわす(井上幹男)。
- チョウゲンボウ** ◇4月13日、志木市の新河岸川で2羽(二村英克)。
- コチドリ** ◇3月28日、志木市の柳瀬川、高橋下流で3羽。胸の羽毛をふくらませて、向かい合って、鳴き交わしていた(二村英克)。◇4月5日、桶川駅西口公園近くの空き地に3羽飛来。その後、抱卵している(立岩恒久)。
- シロチドリ** ◇4月21日、幸手市上吉羽の中川で1羽(秋間利夫)。
- ムナグロ** ◇4月2日、浦和市秋ヶ瀬B区で17羽(石井 智)。◇4月9日、幸手市上吉羽の中川で30羽以上(秋間利夫)。◇4月15日、杉戸町大島新田で30羽以上(秋間利夫)。◇4月23日、深谷市の上武大橋下流で24羽(井上幹男)。◇4月29日、幸手市戸島の休耕田で10羽(秋間利夫)。
- ケリ** ◇12月29日、戸田市道満の下水処理場の草地で1羽(桜井九郎)。
- キョウジョシギ** ◇4月23日、深谷市の上武大橋下流で2羽(井上幹男)。
- オジロトウネン** ◇4月15日、杉戸町大島新田で2羽(秋間利夫)。◇4月21日、幸手市上吉羽の中川で3羽(秋間利夫)。
- ハマシギ** ◇4月24日午前7時30分、本庄市の阪東大橋下流の中州で夏羽36羽。おそろいのトレンドィーな黒の「サロン前掛け」をしていた(町田好一郎)。
- ツルシギ** ◇4月6日、戸田市道満で2羽(二村英克)。
- キアシシギ** ◇4月29日、幸手市戸島の休耕田で1羽(秋間利夫)。
- チュウシャクシギ** ◇4月29日、幸手市戸島の休耕田で1羽(秋間利夫)。
- ツバメチドリ** ◇4月18日、深谷市の上武大橋上流のコアジサシのコロニーで1羽(井上幹男)。◇4月20日午前7時、本庄市の阪東大橋下流の中州上空で2羽。コアジサシと仲良くフライトしていた。昨年より約10日早い(町田好一郎)。
- コアジサシ** ◇4月4日、深谷市の上武大橋下流で2羽(井上幹男)。◇4月14日、幸手市外国府間の権現堂川で5羽(秋間利夫)。
- アオバズク** ◇4月5日午後9時、熊谷市の高城神社で1羽(鈴木忠雄)。
- カワセミ** ◇4月5日午前9時頃、浦和市の白幡沼で五分咲きの桜の花の下で、カワセミさんの結婚式が挙行されました。キルルル、キルルルという甘え声を出しながら、うれしそうに飛び回っていました。おめでとうございます。翌6日も、花嫁花婿の甘い新婚生活が続いていました。春まっさかりです(海老原美夫)。◇4月7日、坂戸市浅羽野地区の高麗川で1羽(館 明良)。◇4月21日、幸手市上吉羽の中川で2羽(秋間利夫)。
- アオゲラ** ◇4月6日、志木市の朝志ヶ丘の森で♀1羽(二村英克)。◇4月7日、坂戸市西坂戸の自宅。雨なので窓からウオッチング。柳の幹で♂♀各1羽。仲よく採餌していた(増尾 隆、節子)。
- ツバメ** ◇3月20日、熊谷市万吉で1羽(森本國夫)。
- イワツバメ** ◇3月19日、熊谷駅付近で1羽

(森本國夫)。◇3月21日、坂戸市浅羽野地区の高麗川で多数(館 明良)。

ピンズイ ◇4月27日、大宮ゴルフコース北側の家のアンテナに1羽。胸の縦線がはっきりと。首を左右にふりふり、「ツィツィツィ……」とさえずる(立岩恒久)。

ヒヨドリ(渡り) ◇4月17日、桶川市若宮の自宅上空を南西から北東へ3回に分れて180羽以上が渡る(立岩恒久)。

キレンジャク ◇4月16日、春日部市の春日部女子高校の校内でヒレンジャク9羽の群れ中に1羽(武田裕子)。

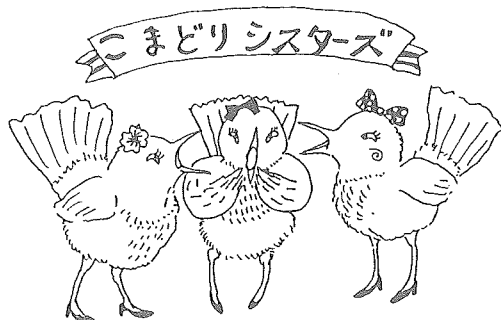
クロツグミ ◇4月15日、秩父市の羊山公園で1羽。朝、霧雨の中で鳴いていた(山岸昭治)。◇4月21日、横瀬町宇根で1羽(海老原美夫)。

アカハラ ◇4月1日、志木市の柳瀬川、日本レダリー横で1羽(二村英克)。

オオヨシキリ ◇4月18日、深谷市の上武大橋下流で1羽(井上幹男)。◇4月24日、本市市の阪東大橋下流のアシ原で1羽。大きな真っ赤な口を開け「行行子」!隣の枝では、モズが迷惑そうな顔つきでいらんでいた(町田好一郎)。◇4月26日、浦和市の白幡沼で1羽(海老原美夫)。◇4月28日、幸手市木立付近の中川で3羽以上(秋間利夫)。◇4月28日、桶川市川田谷のホンダエアポート西側、沼のアシ原で「ギョギョシ ギョギョシ」と3羽(立岩恒久)。◇4月29日、幸手市戸島の休耕田で1羽(秋間利夫)。

エゾムシクイ ◇4月29日、児玉町の間瀬湖周辺で1羽(田口浩司)。

センドタイムシクイ ◇4月15日、秩父市の羊山公園で1羽。朝、霧雨の中で鳴いていた(山岸昭治)。◇4月20日午前7時50分、



押川歳子

大宮市の大宮ゴルフコース北西の中分氷川神社奥の雑木林でさえずりを聞く。4月27日、同所で1羽。姿も確認する(立岩恒久)。◇4月21日、坂戸市の城山の森で1羽(増尾 隆・節子)。

オオルリ ◇4月20日、神泉村の城峯公園の満開の山桜の枝で♂1羽(林 滋)。◇4月28日、秩父市の浦山溪谷で♂1羽。新緑の中、枯れ木にとまっていた(山口輝雄)。◇4月29日、児玉町の間瀬湖周辺で♂2羽(田口浩司)。

アオジ ◇3月28日、桶川市鴨川2丁目の梅林で鈴の音の様な美しい声でさえずる(立岩恒久)。

マヒワ ◇4月21日、北本市石戸宿の斜面林で10羽以上。クヌギの花芽を食べていた(立岩恒久)。

ウソ ◇3月29日、越生町の世界無名戦士の墓で♂2羽、♀1羽。ふくらみかけた桜の花芽をついばんでいた(増尾節子)。◇4月6日、坂戸市西坂戸の城山で♂3羽、♀2羽。同じ木にマヒワも加わって感激(増尾節子)。

イカル ◇3月29日、越生町の弘法山で10数羽。(増尾節子)。◇3月30日、上福岡市上福岡で1羽(中村 治)。

表紙の写真

1990 ネイチャーフォトコンテスト入選作

アオバズク(フクロウ科)

巢立ちとは、バツと一気に巣穴から飛び立つものと思っていたが、巣穴のまわりを伝わり歩きをしていて、なかなか飛び立たない。その内に、親鳥は餌を運び始めた。

待つこと3時間くらい。とうとうあきらめ

て帰宅したのが、夜11時頃になっていた。

翌朝、夜明けとともに再び訪れてみると、巣穴から7mくらいはなれたところに親子で並んでいた。何とも言い難い姿に、感動の一瞬だった。

鈴木秀男(大宮市)

行事あんない



熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月9日（日）

集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:00 発または寄居8:52
発に乘車

担当：諏訪隆久、岡安征也、林滋、町田好一
郎、逸見嶮、関口善孝、諏訪夕香子、
田口浩司、宮坂亨

見どころ：カッコウVSオオヨシキリ。大麻生
では今、托卵という、ちょっと辛口の
ホームドラマが、くり広げられていま
す。この習性、自然のなかでは、いっ
たいどんな意味をもっているのだしょ
うか。今月号2～3ページの記事で予
習しておくと、興味も倍増します。

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予
約申込みの必要はありません。受付は探鳥会
当日です。参加費は一般100円、会員及び中
学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、
昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨
決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、
午後1時ごろになります。

◇フィールドマナー、いつも忘れないで◇

- ・鳥に近づきすぎたり、植物を採ったり荒ら
したりしないように。細く長いおつきあいを。
- ・ゴミは、家まで持ち帰りましょう。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：6月16日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東
口（集合後、バスで現地へ）または、
午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、手塚
正義、伊藤芳晴、笠原伸子

見どころ：お待たせしました、カルガモ・ジ
ュニア誕生。芝川の流れに、親鳥がス
ーイスイ、そのあとを、ヨチヨチ泳ぎ
のヒナたちが、1羽、2羽、3羽・
一見楽しそうなお散歩風景ですが、じ
つは、お母さんも子供たちも、不安で
ドキドキ。だから、遠くから、そっと
見守って下さい。

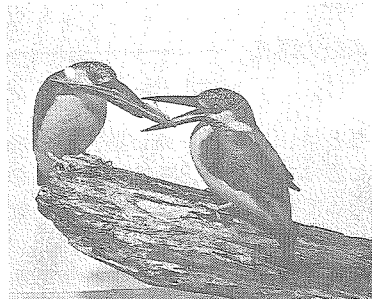


↑：クマタカ

→：カワセミ

わっ！超アップ!?

実は、バードカービング。山岸昭
治さん（秩父愛鳥会）の作品です。



大滝村・三峰神社探鳥会

期日：6月16日（日）

集合：午前9時20分 秩父鉄道三峰口駅前
（その後バス、ロープウェイで現地へ）
または、午前10時30分 三峰山ロープ
ウェイ三峰山頂駅前

解散：現地にて午後2時ごろ

担当：諏訪隆久

見どころ：奥秩父の玄関・三峰で、夏鳥を楽
しむ。三峰神社周辺の、昼なお暗い、
深い森に、溪谷に、日本の夏を代表す
る歌い手たちのアリアが響きます。出
演予定者は、コマドリ、キビタキ、ク
ロツグミ……

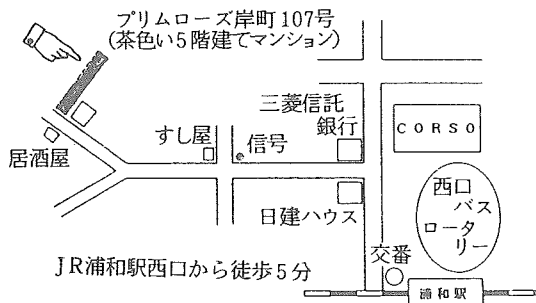
『しらこぼと』袋づめの会

とき：6月29日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局（地図参照）

案内：うとうしい梅雨、せっかくの土曜の
午後も、気分はブルー。そんな時は、
事務局でお手伝い。おしゃべりして、
仕事して、みんなで楽しく過ごせば、
いつのまにか心は、雨あがり。

事務局は ここです！



野鳥写真クラブ定例会

とき：6月29日（土）午後2時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：写真を始めてみたものの、作品の出来
が、どうもイマイチ……という方、
一度写真クラブをのぞいてみませんか。
スライドを見たり、見せたりしている
うちに、何か上達のヒントがつかめる
かもしれません。

平成3年度(第7回)埼玉県支部総会

期日：6月30日（日）

（詳しくは12ページをご覧ください）

上尾市・八枝神社探鳥会（夕方）

期日：7月7日（日）

集合：午後5時30分 西上尾第2団地バスセ
ンター（その後、現地まで歩きます。
約20分）

交通：上尾駅西口東武バス5番乗り場（第一
勧銀前）より17:04、17:11のバスに
乗車

担当：乗田実

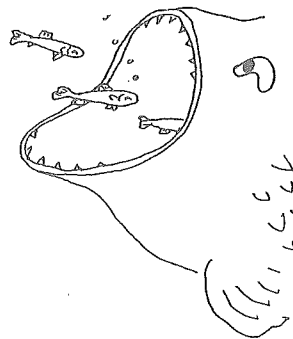
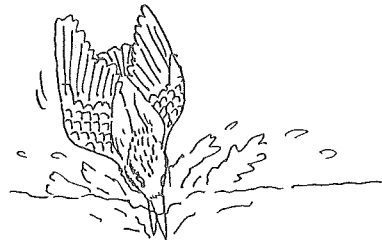
見どころ：夏の宵、耳をすませば……静か
な神社の境内で、息をひそめて待つて
いると、ほら、聞こえてくるでしょ、
アオバズク。運がよければ、姿も見ら
れるかもしれません。ご近所の方を誘
って、夕涼みがてら、ぜひどうぞ。

注意：蚊が気になる方は、虫よけや虫さされ
の薬をお持ち下さい。

7月13日（土）高麗川（川角）探鳥会

7月14日（日）大麻生定例探鳥会

7月21日（日）三室地区定例探鳥会



行事報告

1月15日(休) ガン・カモ類県内一斉調査

がんばってくれた人 荒木恒夫、五十嵐浩、石井智、石井幸男、石岡友二、石川朗、伊藤芳晴、榎本秀和、海老原教子、遠藤薫、大武昭雄、角田真喜子、笠原伸子、金井祐二、河辺達朗、久保田忠資、小林恒雄、駒崎政雄、小谷野勝栄、佐久間博文、佐藤方博、嶋田和江、諸徳寺四郎、進藤隆、諏訪隆久、諏訪夕香子、高草木泰行、立岩恒久、手塚正義、登坂久雄、内藤義雄、中島郁夫、中島康夫、中村治、中村一久、馬場昇、林滋、寿原淑郎、菱沼一充、菱沼洋子、福井恒人、藤嶋正志、逸見嶮、町田好一郎、松井昭吾、三田長久、森本國夫、森本陽子、吉本富美子、吉原俊雄、山部直喜、渡辺敦(52人)晴天に恵まれたこの日、県内17カ所で調査が行われました。結果は、『しらこぼと』4月号のとおりです。

2月3日(日) 蓮田市 黒浜沼

人 33人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ コサギ カルガモ コガモ イカルチドリ タゲリ タシギ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(29種)カブスカウトの子供たちを含め、参加者の3分の2以上が初めての参加であるため、双眼鏡の使い方の説明やモノサシ鳥の説明の後スタートした。冬枯れのアシ原を歩き、ジョウビタキやカワラヒワ、アオジなどを十分に観察し、沼では、のんびりと休んでいるコガモやイカルチドリを見た。子供たちが飽きてきた頃、運よくタゲリが出現し、その美しさに感動していた。初心者の多い探鳥会でしたが、野鳥のすばらしさには十分満足

していた様子でした。

(中島康夫)

3月3日(日) 軽井沢 野鳥の森周辺

人 28人 **天気** 晴 **鳥** トビ ノスリ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カワガラス ミソサザイ ルリビタキ ジョウビタキ トラツグミ シロハラ ツグミ キクイタダキ エナガ コガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカラ ホオジロ カシラダカ アトリ カワラヒワ ベニマシコ イカル シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(35種)雪は少ないとの情報なので、いつもの逆のコースに行く。レンジャクはついに観察できなかった。

(福井恒人)

3月24日(日) 北本市 石戸宿

人 42人 **天気** 快晴 **鳥** コサギ ノスリ ハヤブサ コジュケイ バン キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(27種)暖かな日差しの下、ウグイスのさえぎるなか梅の里を散策。集合場所でノスリとカラスの空中戦を観戦。ハヤブサも近くに出現。最後は、ちょっぴり早めのエドヒガンザクラの花見としゃれてこんだ。タウン情報誌“YOU”の取材があって、5月号に掲載予定とのこと。

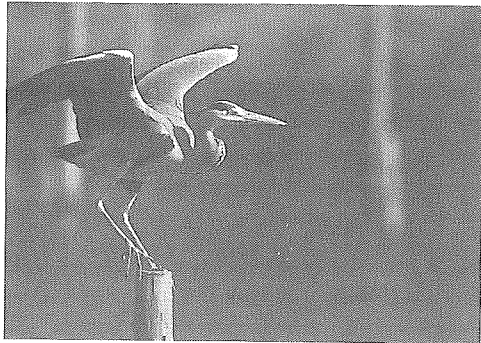
(岡安征也)

3月30日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 14人

作品発表した人 ビデオ1人 スライド4人
最近ビデオの作品が増えています。スライ

ドだけではなく、ビデオも歓迎。自慢の作品を見せてください。（事務局にあるデッキはVHSです。）



アオサギ（小川寿一・浦和市）

3月31日（日）北川辺町 渡良瀬遊水池

人 10人 **天気** 曇 **鳥** カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ トビ オジロワシ オオタカ ノスリ チュウヒ キジ シロチドリ タシギ ユリカモメ シラコバト キジバト ヒメアマツバメ アマツバメ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス セッカ ホオジロ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス（42種）集合時間直前まで雨が降っていたため参加者が少なかった。開始直後、オジロワシが現われ、土手の上に降りたり、木に止まったり、上空を飛んだりの大サービス。その後、もう1羽現われ、最後までオジロワシを存分に楽しむことができた。その他、ノスリが計7羽、チュウヒ2羽、オオタカ1羽、トビ数羽、貯水池では夏羽のカンムリカイツブリや3千羽位のカモも見られた。（中島康夫）

4月7日（日）川口市 差間

雨天のため中止。

4月14日（日）熊谷市 大麻生

人 40人 **天気** 曇 **鳥** カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ

カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ キンクロハジロ オオタカ サシバ コジュケイ キジ イカルチドリ ハマシギ イソシギ コアジサシ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ マヒワ ニュウナイスズメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス（43種）季節の変わりめで、普段見かけない鳥たちが僕たちを楽しませてくれる。マヒワやニュウナイスズメがこれでもかというくらい群れていた。上空には上昇気流に乗って旋回するサシバ、水面には、渡りの途中のカモたち。気になるのは河原に工事機械が入り鳥たちのすみかを脅かしていることだ。（諏訪隆久）

4月27～29日（金～日）東京都三宅島

人 31人 **天気** 晴（28日）、雨（29日）
鳥 コアホウドリ クロアシホウドリ オオミズナギドリ ハイイロミズナギドリ ハシボソミズナギドリ オーストンウミツバメ ウミウ ヒメウ ゴイサギ アマサギ ダイサギ ミサゴ トビ ハイタカ コジュケイ キジ オオトウゾクカモメ トウゾクカモメ クロトウゾクカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ ウミネコ アジサシ セグロアジサシ ウミスズメ カンムリウミスズメ カラスバト キジバト アオバズク アマツバメ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コマドリ ノビタキ イソヒヨドリ アカコッコ ツグミ ウグイス ウチヤマシマセンニュウ イイジマムシクイ オーストンヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ハシブトガラス（52種）アカコッコ イイジマムシクイなど島の特産種を満喫。疲れた体に、食べ切れない程の新鮮な魚の刺身、アシタバのおひたし、そして暖かい宿のもてなし。帰りの船では、コアホウドリの悠然とした飛翔や、トウゾクカモメ、オーストンウミツバメといった普段見られない海鳥を間近で楽しみました。（北川慎一）



総会のお知らせ

1984年4月24日に164人で発足した埼玉県支部も、ついに10倍の会員数になりました。大所帯となった組織としては、会員一人一人のお考え・ご意見をどのように聞かせていただくかということが、今後大きな課題となります。埼玉県支部は、会員みんなの意見によって進んでいきます。

意見をたたかわすひとつの大きな機会が総会です。会員であれば、どなたでも参加できます。どうぞお出かけください。

【日時】平成3年6月30日(日)

午後1時受付開始 1時30分～4時総会

【場所】浦和市立コミュニティーセンター
(浦和市岸町5-1 浦和駅西口から県庁通りを西に進み、中仙道を左折して約600m 右側 徒歩約10分) 3階視聴覚室

【議題】平成2年度事業報告と決算 平成3年度事業計画と予算 平成3年度役員 その他

印刷方法工夫してます

この『しらこぼと』は、タイプオフセットで印刷しています。今のところそれが一番安い費用ですむからです。

ところで、最近編集部員たちの原稿書きはほとんどがワープロになっています。

ということは、ワープロで割り付けまですませた原稿を作りながら、また一字一字タイプで印字して、それをまた一字一字校正するという手間をかけているわけです。

そこで、ワープロで印刷用版下まで作ってしまおうという工夫を始めました。先月号の2～3ページと連絡帳のページが最初の試みです。

まだ不慣れですが、そのうちプロに負けない版下ができるようになると思います。

多額の寄付にお礼

都内板橋区在住の会員、生井重男・智恵子ご夫妻から、それぞれ10万円ずつ、合計20万円のご寄付をいただきました。ありがとうございました。

6月の土曜日当番(2時～6時)

8日 登坂久雄 金井祐二

15日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)

22日 長谷部謙二 立岩恒久

29日 袋づめの会(1時から)

会員数は

5月1日現在 1,651人です

活動報告

4月8日 秩父愛鳥会とバードウィーク展打合わせ(海老原)。

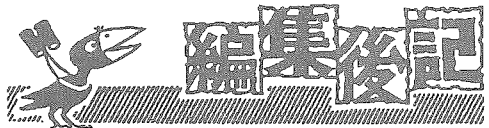
4月9日 鳥獣保護員認証式(福井)。

4月9日 アイリスメガネ・アズ熊谷とバードウィーク展打合わせ(海老原)。

4月10日・24日 狭山チャリティーバザー打合わせ(石崎・海老原)。

4月12日 写真家・平野伸明氏来所。サハリツアーについて相談。

4月20日 役員会議(司会:藤原寛治、バードウィークイベント、その他)。



5月の連休に北海道東部の釧路湿原を歩いてきました。仲間と探した蛇行する川を見渡せる丘は、今は湿原展望の一大観光地に、私の20年来の湿原観察コースは、自然観察路として整備されていました。国立公園となった釧路湿原は、まわりの丘の樹はほとんど全て伐採され、シラルトロ湖畔には別荘地が出来、ゴルフ場計画さえあります。国立公園化運動を手助けした一員として、複雑な思いを隠せません。
(小荷田行男)

『しらこぼと』1991年6月号(第85号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町 107号 郵便振替東京9-121130
印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)